




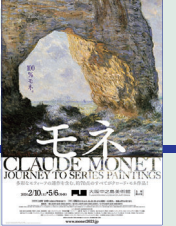




OSAKA MUSEUMS 展覧会スケジュール

2024年	2月	3月	4月
大阪市立自然史博物館 〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園 1-23 TEL : 06-6697-6221		 2024/2/23-5/26 第54回特別展 「自然史のイラストレーション ～描いて伝える・描いて楽しむ～」	
大阪歴史博物館 〒540-0008 大阪市中央区大手前 4-1-32 TEL : 06-6946-5728	2024/1/10-3/4 特集展示 「描かれた人たち -尊崇・憧憬・追憶-」 	2024/3/6-5/6 特集展示 「再発見！秀吉の大坂城 -金箔瓦と家紋瓦-」 	
大阪中之島美術館 〒530-0005 大阪市北区中之島 4-3-1 TEL : 06-6479-0550	2023/12/23-2024/2/25 「決定版！女性画家たちの大阪」 	2024/3/9-5/6 「没後50年 福田平八郎展」 	
	2024/1/27-2/25 「Osaka Directory 6 supported by RICHARD MILLE 木原 結花」 		
	2024/2/10-5/6 「モネ 連作の情景」 		
大阪市立東洋陶磁美術館 〒530-0005 大阪市北区中之島 1-1-26 TEL : 06-6223-0055	改修工事のため2024年4月11日まで休館 	4月12日 リニューアル オープン 	2024/4/12-9/29 リニューアルオープン記念特別展 「シン・東洋陶磁 -MOCOコレクション」
大阪市文化財協会 〒540-0006 大阪市中央区法門坂 1-6-41 TEL : 06-6943-6833	見学は電話での事前予約をお願いします。		
大阪市立科学館 〒530-0005 大阪市北区中之島 4-2-1 TEL : 06-6444-5656	改修工事のため2024年夏頃まで休館（予定）		
大阪市立美術館 〒543-0063 大阪市天王寺区茶臼山町 1-82 (天王寺公園内) TEL : 06-6771-4874	改修工事のため2025年春頃まで休館（予定）		

美術・歴史・自然・科学…
 多彩な分野の学芸員のトークを楽しもう！



2024年2月13日[火]より
 YouTubeで順次公開！

地方独立行政法人
 大阪市博物館機構 事務局経営企画課
 〒540-0008 大阪市中央区大手前 4-1-32(大阪歴史博物館内)
 TEL : 06-6940-0569 (平日 9:30 ~ 17:00)



SNSで
 情報発信中



視聴方法

YouTubeにてご覧いただけます
 (視聴無料/申込不要)



最新情報

大阪市博物館機構のホームページ
 (<https://ocm.osaka/>)より
 ご確認ください。





OSAKA MUSEUMSって面白いかも!

「OSAKA MUSEUMS」には80名以上の学芸員が所属しています。美術・歴史・自然・科学・・・それぞれの得意分野を持つ“学芸員”のことを知ってもらえるように、学芸員が“いま”話したいことを皆さまにお届けします。

視聴方法

公開日の午後4時頃よりOsaka MuseumsのYouTubeチャンネルにてご覧いただけます。(視聴無料/申込不要)



最新情報

大阪市博物館機構のホームページ(https://ocm.osaka/)よりご確認ください。*タイトル・時間・内容等は予告なく変更したり、状況により中止する場合があります。あらかじめご了承ください。



2月13日[火]公開

万博会場ができる前の夢洲の自然



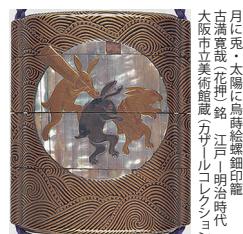
夢洲で見つけたカワツルモ。大阪府では絶滅したと考えられていた。

長谷川 匡弘
大阪市立自然史博物館 学芸員

埋立地に自然などない!と思われる方もいらっしゃるかもしれません。しかし、大阪湾の広大な埋立地である夢洲には、万博会場として整地される前、湿地があちこちにあり、大阪府では絶滅したと考えられていたカワツルモなど貴重な水草などが見られました。今では失われた、大阪市内の貴重な環境についてお話しします。

2月14日[水]公開

近世工芸の粋! カザールコレクション



月に兎・太陽に鳥詩絵巻印籠 古瀬寛哉(花押) 江戸(明治時代) 大阪市立美術館蔵 カザールコレクション

菊地 泰子
大阪市立美術館 学芸員

カザールコレクションは、スイス人のU・A・カザール氏(1888-1964)が明治末頃から昭和中期にかけて蒐集した漆工芸の集大成です。これらの多くは昭和50年代から数回に分けて当館に收藏され、館藏品の中核を成しています。今回は、コレクションの一部である装身具一印籠・根付・櫛などに絞り、見どころを紹介します。

2月15日[木]公開

新しい淀川像を探る ー過去3万年の姿、その移り変わりー



淀川三川合流地点上空から大阪平野を遠望する

別所 秀高
大阪市文化財協会 学芸員

現在の淀川は私たちにとって馴染みがあるようでない存在になっています。かつて淀川は峡谷を穿ちながら流れ、やがて海に覆われ、その海を淀川が埋め立て、さらに淀川は人間にとって使い勝手が良いように手が加えられてきました。ボーリングデータや考古遺跡の地層、歴史資料などにもとづき、地形学的な視点から過去3万年の淀川の姿やその変化過程を探究します。

2月16日[金]公開

おおさか“派手好き”の真実を探る



紅地流水に蓮山桜文様襦袢(部分) 大阪歴史博物館蔵 浦池番右衛門正徳

中野 朋子
大阪歴史博物館 学芸員

大阪の服飾といえば“派手好き”“豹柄”などの根強いイメージがあります。しかし、商都として繁栄した江戸時代の大坂の服飾は必ずしもそのイメージ通りものではありません。今回は、おおさかの服飾文化が“派手”と通説される背景を探るとともにその魅力について考えていきましょう。

2月19日[月]公開

「商都」を彩った版画家 前田藤四郎 ー版画と商業美術のはざまー



前田藤四郎《屋上運動》1931年(昭和6) 大阪中之島美術館蔵

清原 佐知子
大阪中之島美術館 学芸員

版画家という枠にとらわれず、商業美術にも深く関わりながら昭和期の大坂を生き抜いた前田藤四郎(1904-1990)。改装前の大阪駅の壁画も手掛けています。ここでは大阪中之島美術館が多数所蔵する貴重な作家旧蔵作品・資料とともに、前田の多彩な創作活動を紹介します。

2月20日[火]公開

天気予報と機械学習



科学館屋上での気象観測

江越 航
大阪市立科学館 学芸員

近年、さまざまな分野で人工知能の導入が進んでいます。その際に用いられるのが、機械学習という手法です。実は天気予報では、古くから機械学習が用いられてきました。しかし、機械学習とはいったい何をしているのでしょうか。その基本的な仕組みや、天気予報との関係を紹介いたします。

2月21日[水]公開

「悲劇の美女」は何色に包まれていた?



重要文化財 宮素然《明妃出塞図》金時代・12-13世紀 大阪市立美術館蔵 (阿部コレクション)

八田 真理子
大阪市立美術館 学芸員

前漢時代、匈奴に嫁いだ悲劇の美女・王昭君。当館の所蔵する中国絵画《明妃出塞図》は、彼女の物語をモノクロームの繊細な表現でドラマチックに描き出した名品です。近年の修理では清時代の表紙裂を復元し、鮮やかな装いがよみがえりました。古美術の魅力と諸問題についてお伝えします。

2月22日[木]公開

なにわと油火



長原遺跡で見つかった古代の灯明皿

松本 百合子
大阪歴史博物館 学芸員

大阪は古代から政治・文化の拠点として繁栄し、難波宮や四天王寺など壮大な建築物が造営されました。そのような都市的発展のなかで、難波の人々はどのように暮らしていたのでしょうか。本講座では、大阪市内から発掘調査で見つかった灯明皿を中心に、文献をひもときながら古代なにわのインフラ事情を考えたいと思います。

2月26日[月]公開

描かれた人たち ー大坂と京都の肖像画を読み解くー



木村名彦 藤田忠 翁肖像(画像は部分) 松川半平 大坂歴史博物館蔵

岩佐 伸一
大阪歴史博物館 学芸員

古来、人は人を絵に描いてきました。憧れの人として、懐かしい人として、時には祈りの対象のためとして。今回は江戸時代の大坂や京都の人々を描いた作品を取り上げて、どのような作品が現存するのか、そこから何を読み解くことができるのかを提示したいと思います。

2月27日[火]公開

灯明油の生産と流通 ー江戸の夜を支えた大坂ー



油を搾る図《製油録》

島崎 未央
大阪歴史博物館 学芸員

江戸時代まで、菜種と綿実を原料とする油は、灯明に用いられた生活必需品でした。巨大消費地・江戸の油の需要を支えたのは、実は大坂をはじめとする上方産の油でした。大坂とその周辺地域を対象に、油の生産と流通の諸側面をご紹介します。

2月28日[水]公開

大阪の外来昆虫



大阪の外来昆虫

藤江 隼平
大阪市立自然史博物館 学芸員

大阪には、元々大阪にはいなかったけれど、他の場所から入ってきて、大阪で生活している様々な外来昆虫がいます。博物館がこれまで行ってきた調査結果や、収蔵標本の情報をもとに、大阪にいる様々な外来昆虫の生息状況や分布の拡大状況などについて紹介します。

2月29日[木]公開

金工品にみる物語



青銅製王五子香奩像 後漢末(三国時代) 大阪市立美術館蔵(山口コレクション)

田林 啓
大阪市立美術館 学芸員

古の人々の息吹を現代に伝える美術品。その一つ金工品には、各種の物語が反映されます。当時親しまれた故事(物語)が描写されるだけでなく、人々の技術開発の物語、伝来の物語をそこに読み解くことが可能です。3つの物語に焦点を当て、金工品の多角的な見方を提示します。

3月1日[金]公開

墓門の守護者「天王俑」のすがたを辿る



加彩天王俑 唐時代・8世紀 海野信彦氏寄贈 大阪市立東洋陶磁美術館蔵

因幡 聡美
大阪市立東洋陶磁美術館 学芸員

甲冑を身にまとい邪鬼を踏みつけ、まるで見る者を威嚇するような表情…一見、仏教の四天王像や十二神将像のようにも見えますが、実はこれは死者とともに墓に埋葬された俑(よう)といえます。貴族文化が花開いた中国・唐時代、墓室の入口に登場した「天王俑」の系譜を紐解きながら、その多様で精緻な造形をご紹介します。

3月4日[月]公開

古代なにわの魚とり



現代の賑やかな大湾

安岡 早穂
大阪歴史博物館 学芸員

“大宮の内まで聞こゆ網引すと網子ととのふる海人の呼び声” 宮の中にまで網を引く海人の声が聞こえてくるよ。古代難波(なにわ)の地は、万葉集にも歌われるように海とつながりの深い場所でした。網漁や蛸壺漁の考古学的証拠から、大阪湾をのぞむ難波宮という都の周りで、どんな魚とりの光景があったか描いてみます。

3月5日[火]公開

大阪の淡水魚の危機! ~外来魚による遺伝子汚染~



大阪府の在来ドジョウ(上)と外来ドジョウ(下)

松井 彰子
大阪市立自然史博物館 学芸員

外来魚がもたらす悪影響の1つが、在来魚との交雑による遺伝子汚染です。たとえば、在来魚だと信じられてきたドジョウやメダカの一部が実は外来魚で、在来魚との交雑が進んでいることが明らかになってきました。大阪府における淡水魚の遺伝子汚染の実態を紹介し、課題と対策を考えます。

アーカイブ公開

紺色ラベルの講座は公開日以降もOsaka MuseumsのYouTubeチャンネルにて視聴できます。

アーカイブ公開なし

白色ラベルの講座は公開から24時間限定配信となります。

各日午後4時頃 Osaka MuseumsのYouTubeチャンネルに公開します!